琉球大学学術リポジトリ

夏の養鶏

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学農家政学部
	公開日: 2011-06-22
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 松田, 祐一, Matsuda, Yuichi
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20558

夏の養鶏

むし暑い亜熱帯の沖縄に、養鶏が適するか否かという論議をしりめに、鶏の数は、夏の水銀柱のようにグングンのびて、今や、沖縄の鶏は66万羽をこえるようになった。

多くの人々に、新しい、安い卵を供給し、同時に生産者も利益をうけるように、養鶏を軌道にのせるために、多くの問題があるだろうことが考えられるが、鶏の飼いにくい夏の時期の２つの問題について考えてみたい。

1. 夏の軟便

ケージ養鶏が盛んになるにつれて、夏の軟便が養鶏家を困らすようになった。暑くなると鶏は、沢山水をのむことは、人間や他の動物と同じであるが、ケージでは、バタリーで鶏を飼うよりも多くの水をのむ。

愛知県 種鶏場の調査では、気温摂氏32度の時に、1羽が1日にのむ水の量は、次のようになっている。

	平飼い	バタリー	ケージ
1日にのむ水の量	231CC（1合3勺）	210CC（1合2勺）	310CC（1合7勺）

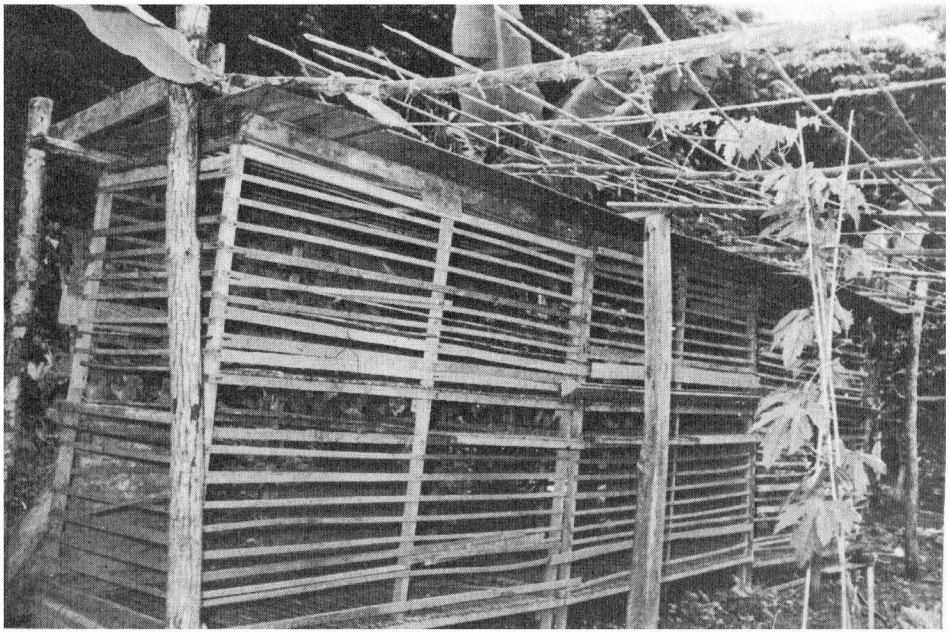
即ち、バタリーでは、1羽で1合2勺しかのまいなのに、ケージでは、1合7勺ものんでいる。

水を沢山のむので、のんだ水は、尿となって沢山排泄される。鶏は、糞と尿と同時に出すから、夏のケージ養鶏は、軟便で養鶏家をなやますのである。軟便は、下痢とは違うので、そのために産卵が減るわけではないが、鶏舎を汚すので困るのである。

軟便を防ぐために、次の方法が考えられる。

鶏舎を涼しく

暑さのために水を沢山のむのであるから、鶏舎を風通しのよい涼しい場所に建てること、換気窓を多くして舎内空気の流通をはかること、日覆を作ったり、トタン屋



写真は長さ18尺・巾3尺の大雛育成バタリー、寸法は次頁の図解を見よ。

根には、屋根の上に草を束ねて並べ、日光の直射を防ぐ等いろいろ工夫して、鶏舎を涼しくすることが、一番よい方法である。

飲み水を制限する

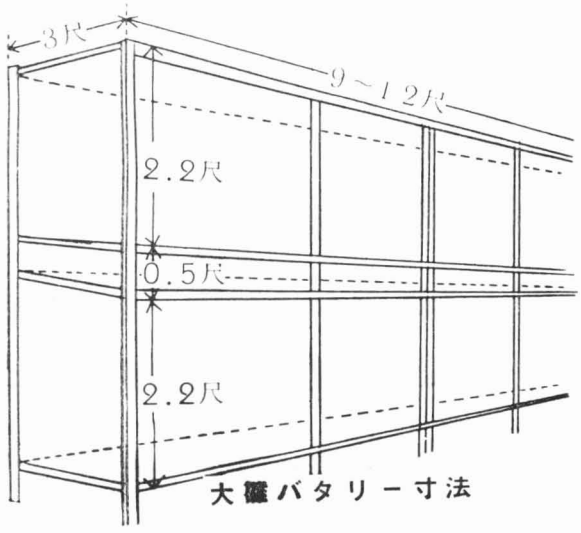
この方法は、鶏の健康や産卵に悪い影響を与えずに、しかも軟便の防止に役立たなくてはならない。ケージに入れるとバタリーや平飼いに比べて、何故多くの水をのむのか、その原因はよく分っていない。飲み水を制限することも、よいことか、悪いことか、よく分っていないが、普通に行われている方法、又は研究されている方法は次のようである。

1．給水量を制限する方法

飲水量は、暑さの度合と関係があり又鶏の個体によって違うので、いくらに制限したらよいか分らないが、例えば、1日210CC即ち1合2勺のむとして、之を3つに分け、1日3回餌を与えるときに、所要量を給水する方法である。又は、この量の水で、餌をねり餌にして与える方法がある。

2．給水時間を制限する方法

1日に、のます水の量をよく考えてからでないと時間は決定されないが、例えば、1日3回15分間の制限給水で生産には影響を与えずに、糞の状態を改善出来たという報告があるが、これは、アメリカでの試験であるから、沖縄でもこの通りでよいかどうか、分らない。



大雛バタリー寸法

3．給水器の位置をかえる方法

この方法は、かろうじて水がのめる程度に、給水樋の位置を高くしたり、給水樋を給餌器と反対側に移す方法である。尚飲水を浅くする方法等が考えられている。いづれにしても制限給水は、給水量を誤ると、鶏に対する影響を生ずるので、軟便防止の根本策とはいえない。

原則的に、鶏舎の防暑に、重点をおいて室温を下げるように努めないといけない。前述のように、軟便は、産卵に影響するというよりも、鶏舎を汚すので困るのであるから、水を制限するにしても、制限し過ぎないように注意したい。水は、何等制限の必要がないという人も沢山いるのであるから。

2．大　雛　育　成

6月は殆んどの養鶏家が大雛を育成する時期である。土の上で鶏を飼うことが見られなくなり、雛の育成もバタリーでやって、土をふませないから、コクシジウム症や蛔虫等の害が少くなって、育雛は非常に楽になったが、その反面、雛は運動する広い場所もないので、体のしまった、頑健な鶏が少くなって、体の小さい弱い鶏が出来るようになった。弱い鶏では、立派な成績をあげることが出来ないので、バタリーでも平飼いや放牧と同じ位に体各部の筋肉の発達した発育のよい鶏を育成しようと考え出したのが大雛バタリーである。

大雛バタリーの根本は、バタリー内で、雛が、羽ばたきしながらかけまわることの出来る適当な広さと高さである。

大きさは、長さ—9尺～12尺、巾—3尺、高さ—1尺2寸その中に収容羽数は、10羽が適当であるという、筆者はその大きさで残念乍ら20羽も育成しているが、それでもヒナが死んだり、弱いヒナが出ることはなく、狭いバタリーで飼育するのに比べて、はるかに立派な鶏を育成している。

大雛バタリーで飼う期間は、60日頃から産卵を始める3週間位前迄、或は初産が近づいて、けんかを始める頃迄とする。その後は単飼ケージに移すのである。そうすると最後の1羽まで立派に育成出来る。是非大雛バタリーを造り、立派な鶏を育成したいものである。

（松　田　佑　一）